高柳交流観光通信　2023年11月号 VOL.23

まってるすけ高柳

雪国文化体験の旅行商品を開発して東南アジアの旅行者を高柳へ誘客

～高柳観光推進協議会の発足～

〇市から指定管理を受託している町内四つの事業体で構成した高柳観光推進協議会が発足し、キックオフの会を８月２９日、じょんのび村で開いた。観光庁の本年度の補助金事業に採択され、高柳の雪国文化を体験できる旅行商品づくりが課題。今冬からの受け入れ対応を目指す。

〇高柳地域には日本の原風景と国内でも珍しい環状集落、国指定の名勝庭園など貴重な資源が多く存在する。しかし、これまで海外向けのアピールは弱く、訪日外国人旅行者の認知度は門出かやぶきの里を除くとほとんど無かった。

〇こうした中で、同協議会は観光庁が「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を打ち出しているのを知り応募。申請した事業計画が採択され、５００万円の補助金が交付されることとなった。

インバウンド誘客に向け、活動開始した高柳観光推進協議会＝市内高柳町高尾のじょんのび村
サーの古賀学・松陰大観光メディア文化学部長、メニ
も貢献していきたい」と話した。

（柏崎日報９/1 掲載記事より）

〇申請の背景には高柳地域の来訪客が２０１９年の２７万２千人から２１年には１２万人に減少したこと、冬季間は雪が弊害となって観光の閑散期となっているため、逆転の発想で東南アジアでは見られない雪景色、多様な雪遊びの楽しさ、雪国文化の奥深さを生かした新しい取り組みが求められていた。

〇協議会の構成団体は、㈱じょんのび村、㈱生態計画研究所「こども自然王国」、(一社)門出ふるさと村組合、(合)荻ノ島ふるさと村組合の４事業体、５施設。提案した訪日外国人向け旅行商品として、じょんのび村は「豪雪地帯の雪国文化体験」をテーマにかまくらで日本酒やワイン、冬の発酵食文化を楽しむとともに、伝統の宝引き遊び、降雪や星空の夜景をより楽しむスカイランタンなど。こども自然王国はガルルのスキー場で雪を徹底して楽しむ様々な雪遊び備品など。門出かやぶきの里、荻ノ島かやぶきの宿では雪遊び、スノーシューハイク体験など。また門出和紙ではオリジナルのあんどん作り、荻ノ島かやぶきの宿ではいろりの炭火を使った食べごと体験などを計画している。

〇総事業費は補助金を含め６００万円。８月２９日に開かれた協議会には、高柳町ふるさと開発協議会の時から助言をいただいている元日本観光協会調査部長で、現在は松陰大学観光メディア文化学部長の古賀学氏、フレンチの鉄人小早川陽青氏が出席。会長に、春日俊雄・荻ノ島ふるさと村組合代表を選出した。「夏場に頑張っても、冬場にそれを食いつぶすというのが今までの流れ。発想の転換で、冬に海外からの誘客を図りたい」との考えだ。

裏面に続く